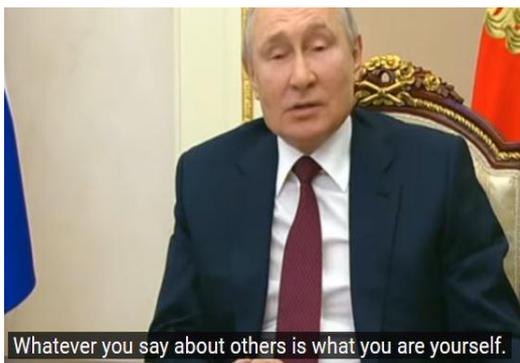


プーチンがバイデンの「殺し屋」発言に応える：

プーチン氏アメリカ大統領の健康を願う：アメリカはロシアの発展をどれほど止めたかろうと、これだけは忘れるな

Russia Insight (Information Clearing House)

March 20, 2021



<https://youtu.be/uO6ptqMSVzU>

私のアメリカの同僚（バイデン大統領）の発言について言えば、我々は、彼の言うように、個人的に知っている間柄だ。彼にどう答えたらいいだろう。彼にはまず健康を願いたい。私は彼が健康であってほしい。これは皮肉やジョークで言うのではない。本当にそう思っている。

2 番目に、もし私がこの問題についてもっと詳しく話すなら、私の言いたいのは、あらゆる国家や国民の歴史には、多くの非常に難しい、劇的な、血なまぐさい出来事があるということだ。しかし、もし我々が他の民族や、他の国家や国民を評価するなら、我々はいつでも自分自身を、鏡に映しているように思える。いつもそこに自分自身の姿を見ている。いつもそこに自分の特性を見ることで、自分がどういう者かがわかるからだ。私は子どものころ、田舎にいて口喧嘩して言ったものだ——「お前が他人について言うことは、お前自身のことではないか！」

そして、これはただの思い付きではない、単なる子供の言うことでも冗談でもない。これは心理学的に非常に深いものだ。我々はいつも、他人に自分の特徴を見て、自分と同じだなあと思う。そして、その結果として我々はある人物の行動を査定し、その評価をする。アメリカという体制について言えば——これは全体としてのアメリカ人ではない——その

ほとんどは正直で、礼儀正しく、誠実な人々で、我々と共に平和と友情をもって生きようとしている。そして我々はこれを知っており、これを尊重し、将来はそれに依存して生きようと思っている。しかし、アメリカという国の体制、その支配階級については、その実現は、よく知られた、ちょっと難しい条件の下で形勢されたものだ。

アメリカ大陸のヨーロッパによる征服が、その土着民の絶滅につながった。今日でいう「ジェノサイド」によって――。インディアン部族の直接のジェノサイドがまずあり、それから、非常に厳しい、長い、奴隷制の時代が続いた。非常に残酷な奴隷制だ。これらすべてが歴史を通じて起こり、今日のアメリカ人の生活には、それが強く残っている。そうでなかったら、どうして Black Lives Matter [ロシア語で言っている] 運動が起こるだろう？ 今日まで、アフリカ・アメリカ人たちは、不当な扱いと絶滅に直面してきた。

そのような考え方に導かれて、アメリカの支配階級たちは、内政と外交の問題を一緒に解決しようとする。何といてもアメリカは、核兵器、原子爆弾を使った世界で唯一の国家だ。それだけでなく、非核国である日本に対して、ヒロシマやナガサキに対して、2次大戦の終わりには、それを使った。ここには軍事的な意味は全くなかったのだ。それは文民市民の直接的な絶滅計画だった。

なぜ私はこんなことを話すのか？ それは、アメリカ合衆国、全体としてのアメリカのリーダーシップが、我々とある関係を持とうとしていること、しかしそれはアメリカ合衆国に対する利益の問題についてであり、自分の立場からであることを、私は知っているからである。

彼らは、我々が自分たちと同じものだと思っているが、我々は違った者たちであり、遺伝子的にも、文化的にも、道徳的規準においても、彼らとは異なっている。そして我々は、自分の利益をどう護るべきかを知っている。我々は彼らと協力するが、それは我々自身に関心のある領域においてであって、我々の利益が条件だという意味ではない。そのことを彼らは、勘定に入れておかなければならない。我々の発展を止めようとする、彼らのあらゆる試みにもかかわらず、制裁にも、侮辱にもかかわらず、それだけは勘定に入れておかなければならない。

要するに、我々は、我々の国家的な利益（関心）を念頭において、世界中のあらゆる国家との関係を発展させようとしているということ、そしてそこには当然、アメリカ合衆国が含まれるということだ。

[Greatchain 訳注]

ごく最近、バイデン氏がプーチン氏を「人殺し (killer)」と呼び、人々の輿論を買い、苦笑させたが、その後、彼がロシア外交官を追い出したり、ロシアに制裁をかけた。バイデンはプーチンに会いに行ったが、プーチンはこれを「愚かなことをするな、あなた自身のためだ」と言って、むしろ彼を諷めた。これはその一後のインタビューである。

これは短いが、いつもプーチン氏の話がそうであるように、聞いて気持ちがよいので、訳すことにした。バイデンのこの行動は、我々にはキチガイ沙汰に思えるが、ワシントン政界では、これが常識になっていると言ってよいだろう。プーチンは「悪魔」であり、悪魔は当然「人殺し」だから、いつも人々が言っている通りのことを、バイデンは口にただけであろう。

これをよく知っているプーチンは、我々にもよくわかるように、ここに解説している。アメリカの「支配階級」(決して民衆とは言わない)は、いろんな歴史的事情で、ものが正しく判断できなくなった、とプーチンは同情的に言っている。日本への原爆投下のことを言っている部分を、我々はよく聞くべきである。そしてその上で、北方領土のことも理解すべきだと思う。我々は、アメリカ**支配階級**というキチガイどもを抱えていることを、念頭に置くべきである。

また、プーチンの言っているロシアは、ソビエトという恐ろしい者たちの末裔ではないか、と言う人々がいたら、そうではないということ、彼ら(少なくともプーチンの指導するロシア)は、むしろ、ボルシェビキ以来のソ連の、被害者とし自覚していることを知るべきである。これをよく理解するためには、「信じられない悪の集団：ハザール・マフィアの隠された歴史」(1~4)をお勧めする。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/210210.pdf>

私は、現在の狂ったアメリカ——明らかに共産主義=サタンのアメリカ——を正常化する道は、プーチンのような人と、トランプのような人が、(バイデンの反対側からの)「大団結」をすることによるしかないと思う。